

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

22 (通巻26号)

平成17年12月27日発行

【目次】

こんななきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【25】 加茂河のかじかしらずや都人 ~魚の名前を調べる~	1
こんなあります - いちおしレファレンス・ブック - 【15】 仕事に使える便利なツール	2
市町村のみなさんからの発信 【13】 どうしてますか?実習生 苫小牧市立中央図書館 北畠 靖英さん.....	3
《寄稿》“レファレンス・サービス”という言葉の思い出 札幌市立月寒中学校 三上 久代さん.....	4
Librarian's Box(ししょぼこ) 【12】 「規格資料」を調べる	5
こんなことしました 留辺蘂町と厚岸町の事例	7
デジタル・ライブラリアン講習会<北海道短期集中コース> 報告	8
課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 - 【14】 「相互協力担当者会議」の実現を	10
News	11
1 道民ホール展示で図書館をPR	
2 第5回北海道立図書館利用講座 統計の調べ方 開催	
3 市町村図書館職員レファレンス体験研修開催 千歳市から2名受講	
4 平成17年度文書等保存利用機関・団体等職員研修に参加	
5 『資料デジタル化の手引き』を公開(NDL)	
6 レファレンス協同データベースの公開(NDL)	
7 『地域の情報ハブとしての図書館』ご覧になりましたか?	
8 「チャートで考えるレファレンスツールの活用」(大串夏身著)連載中!	
編集後記	12



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【25】

加茂河のかじかしらずや都人 ~ 魚の名前を調べる ~

まもなく冬がやって来ようというある寒い日、魚の名前についてのレファレンスを受けました。『ぼくの白状』(小椋山博著 講談社 2005)の中の「カジカ汁」というエッセイで「カジカ」という魚について紹介しているが、その別名はどのように読むのかというものでした。

みなさんは「カジカ」という魚をご存知でしょうか? 『ぼくの白状』p.217では次のように表現しています。「頭でっかちで顔は醜怪、皮膚にウロコがなくてヌルヌルし、白い腹がビールを飲み過ぎた中年男のそれみたいにふくらんでいる」「別名・ナベコワシという異名もあるほどで(略)味噌仕立てのカジカ汁にすると鍋が壊れてしまうほどみんなが引っかけまわして食い尽くす」

私もその昔、友人から「バケツをかぶったような魚」だと聞いていたので、どんな魚だろうと思いましたが、調べてみると、種類にも寄りますがムツゴロウのような顔をした案外愛嬌のある魚です。

文中にある、鰯(かじか)、鮎(かじか)、鮠(ごり)のように一文字のものは、漢和辞典でも調査可能ですが、それ以上になると魚を専門的に扱った本の方が分かりそうです。

通常、魚の名前を調べるには、分類 487「脊椎動物」の魚類事典などを調査します。今回のカジカの場合、ちょうど『日本産カジカ科魚類の研究』(渡辺正雄著 角川書店 1958 当館請求記号: 487.766/W)という本が当館にありました。ちなみに、この著者は『あした来る人』(井上靖著)という小説に出てくるカジカ研究者・曾根次郎のモデルと言われている人だそうです。『日本産カジカ科~』を見ると「我国に産するカジカ科の魚類は 12 亜科 36 属 74 種に別つ」と、74 種類ものカジカについて詳しく言及しています。しかし残念なことに、このような学術的な本では、片仮名やアルファベットで学名等は記載していても、漢字の俗名や異名となるとあまり出ていないことが分かりました。

このような場合、自然科学よりも魚文化などで調べたほうが良いと思い、分類 380「民俗学」、分類 664「漁法」で釣りや他にも魚料理の本を調べました。そして分かったのは、カジカはその字「鰯」が示すように秋が旬の食材で、俳句でも秋の季語になっていたということです。

カジカの別名の石斑魚(いしぶし)、石伏魚(いしぶし)等の読みは『図説俳句大歳時記』(角川書店 1964)の「動物 魚介」の項目にありました。カジカは『源氏物語』の常夏の巻にすでに見られ、古くから歌にも詠まれているのですが、面白いことに、どうも昔の人は同じ溪流に棲むカエルの河鹿(かじか)の鳴き声を、実際は鳴くことが無い魚のカジカの声だと思っていたらしいのです。

この文章の最初につけた題名の「加茂河の~」は蕪村の俳句で、意味は「都人よ、加茂河の魚のカジカの美味をご存じないのか。カエルと混同して鳴き声を和歌で賞美してきたけれども」という皮肉の入った内容なのです。

このレファレンスが終わった後、私も家でカジカ汁をつついて食べてみました。皆さんも寒い日にはカジカ汁でナベコワシしてみてもいいかもしれません。

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【15】

仕事に使える便利なツール

『事例で読むビジネス情報の探し方ガイド 東京都立中央図書館の実践から』(図書館経営支援協議会編)

日本図書館協会 2005.10 243p 21cm ¥1800 請求記号:015.2/J)

本書は、ビジネス支援サービスに関わる(あるいは始めたい)公共図書館員および、一般のビジネスマンを対象に書かれています。「第1章 公共図書館におけるビジネス支援サービス」では、慶応大の糸賀氏が、ビジネス支援サービスの背景と意義をわかりやすく論じています。「第2章 事例で読む探し方ガイド」は、8つの大項目(企業・団体情報、市場・業界情報、統計・データ、経営・ビジネス一般、法令情報、技術・製品情報、起業・就職情報、人物情報)に分け、各項目情報の特徴と種類、探し方、事例解説が示されます。事例は、都立中央図書館で2003年6月以降実際に受けたレファレンスをもととし、回答例、調査資料(インターネットの有効サイトを含む)のほか、資料・用語の補足説明、コラムなどもありとても参考になります。よく来る典型質問や、基本ツールを使った事例が選ばれています。「第3章 ビジネス支援サービスの実践」は、都立中央図書館と品川区立大崎図書館ビジネス支援図書館の報告です。巻末の「キーワード索引」「資料名索引」が便利。

仕事に役立つ図書館を目指すなら、レファレンスツールとして、またテキストとしても使える1冊です。一般の方にもお勧めです。



利用者による図書館ガイド

かなりの図書館通である利用者によって書かれた、図書館ガイドブックです。図書館の利便性を広く知ってもらうのに、打って付けです。

『図書館を使い倒す! ネットではできない資料探しの「技」と「コツ」』

(千野信浩著 新潮社 2005.10 191p 18cm 新潮新書 ¥680 請求記号:S015/T0)

『週刊ダイヤモンド』の記者で、これまで誌上で何度となく情報源としての図書館を取り上げてきた著者による集大成。本の帯には「図書館は優れたビジネスツールだ!」とあり、全国の各種図書館を仕事で利用するなかで培った、具体的な使い倒しテクニックが詰まっています。

『図書館力をつけよう 憩いの場を拓け、学びを深めるために』

(近江哲史著 日外アソシエーツ 2005.10 260p 19cm ¥1900 請求記号:015/T0)

本誌 No.13 (通巻17号)でも紹介した『図書館に行ってくるよ シニア世代のライフワーク探し』(近江哲史著 日外アソシエーツ 2003)の第2弾。図書館を使いこなす能力を、初級(暇つぶし)、中級(読書三昧)、上級(調べごとの達人)、有段者(図書館の改善提案)とし、市民の目線で図書館活用術のステップアップを促します。巻末索引付き。

市町村のみなさんからの発信 【13】

どうしてですか？実習生

苫小牧市立中央図書館 北畠 靖英さん

司書資格取得中の学生さんを実習生として受け入れている図書館は多いと思います。また、最近では、職場体験などで図書館を訪れる児童・生徒さんも増えてきているかもしれません。そんな時、皆さんのところではどのようにしていますか？

今回は、そのような図書館実習の際に当館で行っているレファレンス体験の進め方について書いてみます。参考になるかどうかはわかりませんが。

実際にお客さんの相手をさせる訳にもいきませんし、過去に受けた事例を例題として出しても難しいでしょう。全く経験がなく、NDCさえ知らない場合もあるのですから。

そこで、いささか反則気味ではありますが、先に資料を決めてそこに書かれている内容から問題を仕立て上げるという方法を採用しました。課題の解決の仕方を学ぶというよりは、これから図書館で働く上で知っておくべき基本的な資料、図書館を利用して調べ物をする上で知っておいて損はないであろう特徴的な資料を紹介することに主眼を置いています。

回答例の説明の際には、回答へのルートは一つとは限らない、辞事典や百科事典であっさり解決する場合もある、巻末の資料も見逃せない、という点にも触れるようにしています。

(1)基本の「き」

資料：『天文年鑑 2006』（誠文堂新光社 2005）

『理科年表 第79冊・平成18年』（丸善 2005）

例題：“次の満月はいつ？”

(2)こんなものもあります

資料：『名数数詞辞典』（森睦彦編 東京堂出版 1980）

例題：“雛人形の五人囃子のそれぞれの担当楽器は？”

なお、『年中行事辞典』（西角井正慶編 東京堂出版 1978）や『日本大百科全書 9』（小学館 1986）でも回答を得ることはできます。

(3)こんなところにも

例題：“一尺は何メートル？”（度量衡の換算表ありますか？）

資料：『丸善単位の辞典』（丸善 2002）や『記号の事典 第3版セレクト版』（江川清ほか著 三省堂 1996）などを参照するのが常道ですが、『日本史総覧』（新人物往来社 1988）などの日本史の便覧にも掲載されています。

最後にネタとして重宝している資料をご紹介します。本稿を終わります。さようなら。

『日本国勢図会 2005/06』（矢野恒太記念会 2005）、『昭和・平成家庭史年表 増補』（下川耿史編 河出書房新社 2001）、『オールカラー・6か国語大図典』（ジャン＝クロード・コルベユ/アリアーヌ・アルシャンボ著 小学館 2004）

追伸 “水戸黄門に出てくる助さんのモデルは誰？” あなたなら何で探しますか？

《寄稿》“レファレンス・サービス”という言葉の思い出

札幌市立月寒中学校 教諭 三上 久代さん

Part1

私をはじめレファレンス・サービスという言葉に出会ったのは、大学図書館の手引きだった。B5くらいのクールな印象の冊子だった。その冊子が、その後の私にこんなにホットな道を歩ませることになるとは、当時は思いもよらなかった。

その手引きにはレファレンス・サービスの説明があった。こんな夢のようなサービスを私が受けることができるのだろうかと思ったものだった。そのときのわくわくした気持ちは今でも忘れられない。

Part2

勤めて数年がたったころ、電話でレファレンス・サービスを依頼していたときのことだった。電話がおわってから、かたわらで聞いていらしゃった当時の校長先生が「さっき言っていたし、何とかって何のこと？」とおっしゃった。「レファレンスの訳語は？」と矢継ぎ早の質問。近くにいた英語の先生が「参考の意味です。」間髪をいれずに答える。

職員室で周りにいた先生方とレファレンス・サービスを話題に時が過ぎた。

Part3

それから十数年。

「詩人の苗字だけわかるのだけど、その詩人の書いた詩の後半がどうしたも思い出せない。あなた、国語の先生だから知らないかな？」

残念ながらわからない。教育課程のなかに出てくる詩人ではないため学校図書館には資料がない。そこで、公共図書館に問い合わせるといい旨を伝える。

「どこに、なんていったらいいの？」

「レファレンス・サービスをお願いします。といえいいのですよ。」で一件落着。

学校図書館は生徒自らが調べるところである。だから、調べることを目的にきている生徒に、学校図書館担当者が生徒にレファレンス・サービス(もどきのこと)をすることがあっても、それは公共図書館のレファレンス・サービスとは異なるだろう。そのさじ加減はいわく言いがたしのところがある。

自ら調べることを求める学校図書館としては、レファレンス・サービスの依頼の仕方を教えることを、知らず知らずのうちに視野の外に追いやってしまっているのかもしれない。

司書教諭が発令されて3年がたった。

「レファレンス・サービスをお願いします。」

私が出会った生徒にはこの言葉を言えるようにして、本当の意味での公共図書館の利用者となって、卒業を迎えてほしいと思っている今日この頃である。

Librarian's Box (ししょぼ) 【12】

「規格資料」を調べる

「規格」は、必要に応じて改訂、廃止が頻繁になされるため、「規格資料」の発行形態もそれに対応し、加除式や小冊子が多く、その規格票やハンドブックを網羅的に収集することは困難です。

また、書誌的事項を確認するためのツールとして、海外の規格や仕様書及び制定機関の略号等をアルファベット順に配列し、その概要、所在地、ウェブサイト等を記載した『世界の規格・基準・認証ガイドブック』（日本規格協会編・発行 2004.3 647p 4600円 当館請求記号:509.13/SE）もありますが、ここでは、主な規格を容易に検索し閲覧できるウェブサイトと国立国会図書館（NDL-OPAC）から規格資料の所蔵を確認する方法を中心に紹介します。

1 ウェブサイトの紹介

〔国内規格〕

JIS規格（日本工業規格）

- JSA Web Store 日本規格協会 <http://www.webstore.jisa.or.jp/webstore/top/index.jsp>
標題、規格番号、ICS（国際規格分類）コードなどで検索できます。状態（有効・廃止）の指定もでき、有効規格の場合、規格情報詳細で規格概要、ページ数などがわかります。このサイトではISO（国際標準化機構）やIEC（国際電気標準会議）との横断検索も可能です。検索結果からJIS規格票を購入できます。
- JISC 日本工業標準調査会 <http://www.jisc.go.jp>
規格名称、規格番号、キーワードで検索でき、旧規格・廃止規格検索もできます。現行規格については、検索結果からPDF形式での規格票の閲覧が可能です（プリントアウトは不可）。

〔海外規格〕

規格を制定している主な機関のサイト

各制定機関が提供するサイトでは、きめ細かな規格検索が行えます。

- ISO（国際標準化機構）国際規格 <http://www.iso.ch/> *非電気分野
- IEC（国際電気標準会議）国際規格 <http://www.iec.ch/> *電気分野
- ITU（国際電気通信連合）国際規格 <http://www.itu.int/> *通信分野
（ITU勧告）：日本ITU協会 <http://ituaj.jp/> で原文を無料で閲覧可能。
- ANSI（アメリカ）国家規格 <http://www.ansi.org/>
- AS（オーストラリア）国家規格 <http://www.standards.com.au/>
- BS（イギリス）国家規格 <http://bsi-global.com/>
- DIN（ドイツ）国家規格 <http://www2.din.de/>
- GOST（旧ソビエト/ロシア）国家規格 <http://www.gost.ru/>
- NF（フランス）国家規格 <http://www.afnor.fr/portail.asp?Lang=English>
- ASME（アメリカ）機械学会規格 <http://www.asme.org/>
- ASTM（アメリカ）材料試験協会規格 <http://www.astm.org/>
- CSA（カナダ）国家規格 <http://www.scc.ca/>
- IEEE（アメリカ）電気・電子技術者協会規格 <http://www.ieee.org/>
- NFPA（アメリカ）防火協会規格 <http://www.nfpa.org/>
- SAE（アメリカ）自動車技術会規格 <http://www.sae.org/>
- UL（アメリカ）保険業者安全規格 <http://www.ul.com/>

邦訳された海外規格は、日本規格協会のウェブサイト「海外規格邦訳一覧」のページで検索可能
<http://www.webstore.jisa.or.jp/webstore/Foreign/html/jp/JapaneseGroupList.htm>

横断検索が可能なウェブサイト

- IHS（Information Handling Services）Global Engineering Documents <http://global.ihs.com/>
米国の企業のサイト。約50万件以上の工業規格、基準仕様書、部品調達等を収録。これらの情報は440以上の標準化団体、16,000社以上の製造メーカー、連邦政府系団体からの提供に基づいています。Japanを指定してDocument No.か、タイトル、またはキーワードで検索。検索のみは無料です。

2 国立国会図書館の所蔵確認のしかた (NDL-OPACの検索) <http://opac.ndl.go.jp/index.html>

NDL-OPAC の〔規格・テクニカルレポート類の検索〕で、「レポート番号/規格番号」欄に規格番号を入力して検索します。

検索のポイント・書誌の見方

(1) 「レポート番号/規格番号」欄の検索対象 = 規格番号及び参照規格番号

参照規格番号：当該規格の元になった規格や対応する国際規格の番号など。

(2) 一つの番号で複数書誌がヒットすることがあります。

現行規格・改訂規格・廃止規格 JIS 英訳版、ISO 邦訳版 JIS の対応規格である ISO 規格 (参照規格番号に
入力されている場合) AMD(修正票)

一覧表示だけではなく、書誌詳細も確認することが必要です。

(3) “ASME BPVC”、“Annual Book of ASTM Standards”、“SAE Handbook”など、図書(又は雑誌)に収録されている個々の規格の所蔵状況は規格番号からは確認できません。その規格が収録されている図書(又は雑誌)の巻号やセクション番号の情報が必要となります。各団体のHPで確認可能な場合もありますが、不明なときは文書レファレンスにより問い合わせることになります。

(4) 上記(3)のほかにも図書や雑誌として整理されている場合があります。〔一般資料の検索〕で、資料群「和図書」などにチェックし、タイトル欄に規格タイトルや規格番号を入力して検索します。

(5) 年代の古い外国規格で、所蔵していてもNDL-OPACでは検索できない規格もあります(DIN、FSなど)。NDL-OPACを検索しても見つからない場合は、問い合わせる必要があります。

JAS(日本農林規格)は『現行法規総覧』に収録されています。

このように規格番号がわからないとき(書誌的事項の確認)は、日本規格協会等のウェブサイトで書誌的事項を確認し、それが国立国会図書館に所蔵されているか確認できれば、複写依頼で利用者からの照会に対応できます。

3 規格の複写について

〔規格の種類、媒体の種類による違い〕

(1) 規格票ではなく、雑誌扱いとすることができる規格集

最新号掲載のもの以外(年刊もの場合、刊行から3箇月以上経過したもの)ならば、許諾無しで全文複写が可能(ただし複数の規格を複写する場合、各冊子の半分まで)です。

例としては、ASME、ASTM、SAEなどあります。

(2) 規格票で許諾無しで全文複写できるもの

「国家規格」と「官庁規格」です。例としては、JIS、CAN/CGSB、MILなどがあります。

(3) 「国家規格」でも国から制定権限を付与されている民間団体が制定したもの

全文複写するためには許諾が必要になります。例としては、BS、DIN、ANSI、CAN(.../CGSBでないもの)などがあります。

これ以外の、例えばISO、IEC規格などは、許諾がないと半分までしか複写できません。また、規格を翻訳したもの、規格本体に付けられた解説はいずれも著作権の制限を受けるので注意が必要です。

最後に、国立国会図書館HPの「テーマ別調べ案内」にも“科学技術関係資料”として、規格資料が国内と海外に分けて解説されています。ぜひご覧ください。 http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme_kagaku.html

今回の「Librarian's Box(ししょぼこ)」は、国立国会図書館で開催された平成16年度科学技術資料研修(平成17年3月3日、4日)の内容を基に配付資料の一部を引用しました。また、本誌No.13(通巻17号)では「図書館とJISの意外な関係」を掲載しています。

こんなことしました！

- 留辺薬町と厚岸町の事例 -

図書館にはこんな本があります。～参考図書編～ (留辺薬町立図書館)

教育委員会で発行している社会教育情報誌『ふれあい伝言版』()。ここでは、図書館の新刊本のお知らせ、読み聞かせ会の日程、休館日などの情報を毎月掲載しています。16年4月から、新刊本のお知らせが中心だった紙面を変えようということで、図書館のこと、司書のこと、本のことを住民にアピールする内容を加えることにしました。その中の一つが、新刊のお勧め本の紹介をやめ、図書館に所蔵している新刊ではない資料から本を紹介するというものでした。

まず、「この本読んでみて！」と題して、映画やドラマの原作本や今話題になっている人の本、また司書が気になる本など、いろいろなジャンルから新刊ではない本の紹介を1年間全12回掲載しました。実は、このコーナーの利用者の反応が思いのほか良かったということで、次に考えたのが「図書館にはこんな本があります。～参考図書編～」です。参考図書に注目したのは、当館では参考図書などの禁帯出資料もすべて貸出をしている(5日間)ためです。参考図書の中には珍しい資料や見るだけでも面白い資料が多く、レファレンスの時にページを開くと、私たちでも「面白くて読むのがやめられない」なんてことがあります。しかし、利用者にとって参考図書というのは必要がない限りなかなか手を伸ばさないもの。その参考図書の面白さを住民にお知らせしつつ、レファレンスの宣伝にもなればと思い、掲載を始めました。利用者の反応は多くはありませんでしたが、中には『日本通貨図鑑』(日本専門図書出版)の紹介を見て、喜んで借りてくれた貨幣コレクターの方もいたので侮れません。書架に並んでいるだけでは10年に一度、利用者の目に触れるかどうかという資料かもしれないと考え、本と利用者の貴重な出会いだったと思います。

図書館の資料費の減少が止められない状況では、新刊本で勝負するには限界があります。そのため、「今所蔵している本を少しでも利用してもらえるためには…」と考える毎日です。営業担当みたいですが、積極的に利用者への売り込みを仕掛け、司書から利用者へ様々な形でご提案ができればと思っています。

留辺薬町HPの中の町立図書館の内容は、この「ふれあい伝言版」の記事がアップされたものです。

レファレンスの森本さんの掲示板を設置 (本の森厚岸情報館)

情報館では10月下旬から、館内に掲示板を設置しています。レファレンスという図書館用語がまだまだ町民に浸透してなく、また利用も少なくはないのですが、図書館のお得な活用方法をより知っていただけるとの思いで作りました。A5判の用紙に名前(匿名でも可)年齢、質問を記入し、専用の申込み箱にいれ、数日中に返事を書いて貼り出すという方式です。

記入して下さる方は、年齢は5歳から大人までで、小学校中学年・高学年が多いです。

情報館の利用に関することもあります。子ども達が日常感じているふとした疑問が多いです。

“なんで空にくもがあるんですか？”

“どうして季節があるんですか？”などです。

また、将来に関すること、“にんじやになりたいんですが、どうしたらいいですか”などもあります。

その用紙の範囲で答えています。本の紹介をしたり、足りない場合はカウンターで資料を提供しますというコメントも加えています。

好評で、立ち止まって読まれる方も多いです。

本の森厚岸情報館	
レファレンスの森本さんへ	
名前:	歳
*匿名(とくめい)でも構いませんが、何か記入してください。	
聞きたいことをかいてください。	
森本さんからの返事	

デジタル・ライブラリアン講習会<北海道短期集中コース> 報告

残された時間で図書館ができること

～糸賀雅児氏「変革期の図書館経営とハイブリッド図書館（１）
『市民の図書館』から『地域の情報拠点』へ』報告～

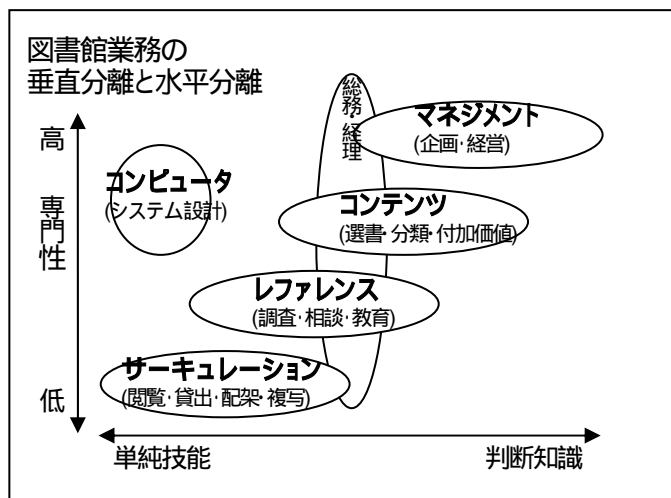
前号の『Do-Re』でもご紹介しましたが、去る9月4日～6日、北広島市図書館を会場に標記講習会（以下「DL 講習会」）が開催されました。道内、道外からの参加者20名が、4名の熱い講師陣と過ごした3日間について、当課から参加した3名でその一部についてご報告したいと思います。まずはその1回目です。

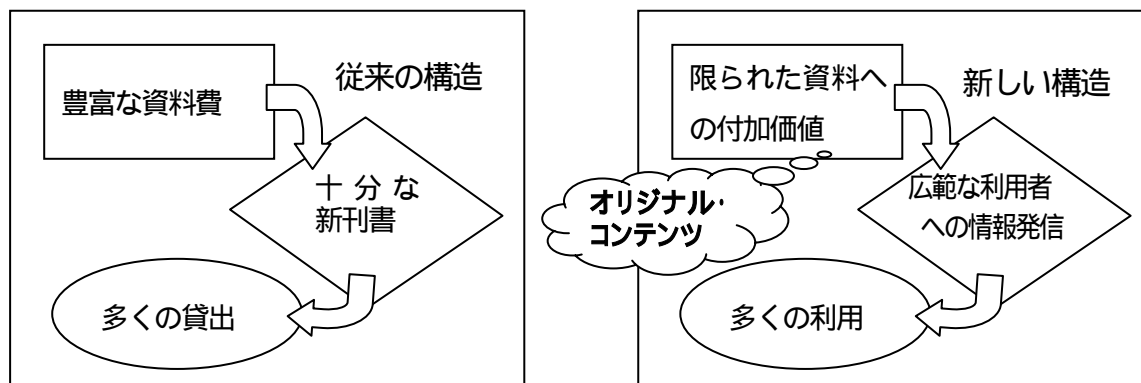
報告を載せるにあたり、改めて講義でいただいた資料を読み直してみた（とりあえず1日目の分）。講習が終わってからのこの3か月間、「忙しい」というのを理由に、ほとんど復習をしていなかったのを悔いもしたが、この間に図書館の状況も自分自身の意識も大きく変わっていることに気づく。「デジタル・ライブラリアン」について、すぐにでも役に立つ情報の共有を、という趣旨のページではあるが、今回私が強く伝えたいと思ったのは、その基盤ともなるべき図書館界の現状と課題についてのこの講義、第1日目第1講目、慶應義塾大学の糸賀雅児氏の「変革期の図書館経営とハイブリッド図書館（１）『市民の図書館』から『地域の情報拠点』へ」であった。

もういやというほど目にし、耳にする「指定管理者制度」についてだが、状況は日1日と悪くなっている気がする。「減らされることはあっても増えない予算と職員」「大半の住民は図書館への関心は低く、安く済むなら民間でよい、と考えている」「指定管理者に対し『専門性』と『公共性』を備えた事業の仕様書にもとづく契約を」「『指定管理者制度』を『指名レファレンス』と『予約レファレンス』制度で迎え撃つぐらいの発想を」など、資料のあちこちに身につまされる言葉の数々が目に飛び込んで来る。

図書館界の状況は大きく変わろうとしている。特に「指定管理者制度」については、かなり前からその危機が叫び続けられていたにも関わらず、「よその館の話だろう」と自館の問題として真剣に考えていなかった感も否めない。が、実際に目前までつきつけられてしまっているのは、きっと道立図書館も市町村の図書館も同じであろう。糸賀氏の講義では、「では実際にどうやって迎え撃てばよいのか」について、数々の提案をしていただいた。

「趣味や教養、娯楽目的の『文化教養型施設』から、ビジネス支援や子育て支援、高齢者支援など、地域の課題に応じた『課題解決型施設』へ」「限られた資料に付加価値をつけ（オリジナル・コンテンツづくり） 図書のみならず雑誌・新聞や地域資料・視聴覚資料・ウェブサイトなど、資料のタイプを越えた情報のサービスで『ハイブリッド図書館』へ」とは、頭で理解できるようになってきた今、肝心なのは、自館でそれをどう実行していくかにかかっているのだと訴えられ、これからの図書館で働く受講者たちの胸に突き刺さった。





また糸賀氏は、「（図書館の姿で）何が正解かは、それぞれの館で決めてください。これはそのための手がかりです」ともおっしゃっていた。そう、これからのその自治体の図書館の運命、ひいては自治体の生涯学習の拠点や地域の情報ハブとしての役割は、私たち（場合によっては首長の一存）にかかっているのだ。

ところで、2000年12月に文部省の協力者会議で描いた「2005年の図書館像」はご存知だろうか。恥ずかしながら私はこの講義で聞くまで知らなかったのだが、2006年になろうとするいま、もう一度、利用者に望まれるような図書館、生き残っていくことのできる図書館の姿について考えてみたい。

もう時間は残されていない。私たち図書館員がやらなくてはならないことは、「学んだ理論を行動に移すこと」「とにかくやってみること」なのだ、振り返ってみてなお一層実感できる講義であった。

文部省地域電子図書館構想検討協力者会議「2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～（報告）」平成12年12月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/005/toushin/001260.htm
 使用した図は、すべて糸賀雅児氏レジュメより一部加筆。

「何が正解かは、それぞれの館で」と投げかけられたDL講習会ですが、最終日の自由討論の時間では「ハイブリッド（混合型）図書館のコンテンツを考える」という題で、自分の地域の課題解決に向けたコンテンツづくりを、具体的に考えてみました。「知っ得ライブラリー」「学校行事お助けします！」「在宅介護サポートプラン」など、各自がさまざまなコンテンツを考え、グループごとに発表しました。（詳しくお知りになりたい方は、お気軽に当課までお問い合わせください！）

課員のつづやき - 日々の業務からの短信 - 【14】

「相互協力担当者会議」の実現を

今年度の当館は、インターネット貸出予約の試行、書庫の一部開放、ILL システムの試行など、いろいろな新しい取り組みを行ってきました。

業務量の問題はともかく、市町村の皆様への周知や相談などの場面で様々なご意見をいただくにつけ、日頃的意思疎通、意見交換の必要性を痛感しています。

平成12年度3月に「図書館相互協力担当者会議」を開催した以降においても、同様の趣旨で協議する場の必要性が北図振の研究事業の中でも訴えられてきましたが、実現には至っていません。

以下、一課員の個人的な見解としてつづやきます。

自治体の財政事情が悪化する中、資料費の確保もままならない状況下で全道各地から担当者に集まってもらうには、余程の準備と同意形成が必要です。さらに、市町村合併や図書館経営手法の変化への対応など、自分のことで精一杯というのが現実ではないかとも思うのですが、それでもなお、このような市町村図書館職員の協議の場を何とか設けなければ、と思うのです。

Web-OPAC や横断検索システムの出現により、市町村間の相互貸借は飛躍的に増加していると思われます。町立規模の図書館においても、借りる冊数よりも貸し出す冊数が多くなったという話をよく聞くようになりました。その分、相互に片道負担で行われている相互貸借の送料負担が、小規模の自治体ではより一層重く受け留められています。

今後さらに財政状況が悪化するようなことになれば、相互協力のネットワークに掛かる負荷も増加するでしょうし、当館でリクエストとして購入提供してきた範囲も影響を受けないとは限りません。

しばらくの間、図書館サービスの先細り傾向は避けられそうにありません。

このような現状であるからこそ、知恵を出し合い協力していくことが大事です。ひとつの自治体でできる努力には限度がありますが、その努力を持ち寄れば大きな力になると信じます。

いささか脳天気な楽観論になってしまいましたが、今一番必要なことは大きな図書館、小さな図書館(室)のそれぞれの立場をよく理解し合うことだと思います。そのことなしに、円滑な相互協力は成り立ちません。

担当者会議の設け方についても、いろいろな考え方があるでしょう。皆さんが全て納得した方法で始められるものではないと思うのですが、実現可能な方法を提案してほしいと思います。私の考え方は、経験的に言って研修事業としてはやりたくないということ。さらに全道から一堂に会すというのも無理。ならば国会図書館がおやりになった、総合目録の協力館会議にならって、ブロック代表方式が現実的かな、と思っています。ただし、当面旅費の負担は出席館にお願いしなければならぬのですが、いかがでしょうか。

NEWS

1 道民ホール展示で図書館をPR

11月7日(月)から3日間、道庁で資料展「図書館発時間旅行 図書館と時代を振り返る80年」を開催。当館80年の歴史と世相を顧みつつ、会場の約半分を使い、図書館の利便性、当館や道内市町村図書館のPRをしました。市町村の皆様には、事前に利用案内や特色あるコレクション情報をお寄せいただき、ありがとうございました。

2 第5回北海道立図書館利用講座 統計の調べ方 開催

当課が中心となり、一般の方を対象に今年度から本格実施している図書館利用講座を11月30日(水)に行いました。当講座は、道民カレッジ(事務局:北海道生涯学習協会)との連携講座として開催し、今回は、統計情報の基本について、所蔵資料とWebサイトを紹介し、実際にインターネットの検索も体験していただきました。一般の方8名の参加がありました。

3 市町村図書館職員レファレンス体験研修開催 千歳市から2名受講

今年度3回目の標記の研修(略称:レファ研)を12月9日(金)千歳市立図書館の2名の方を対象に実施しました。今回の研修は、有効Webサイト情報(書誌・所蔵編)、同(事項調査編)、レファレンス・インタビューの工夫等、6つのコマをカリキュラムとしました。
今年度は、他に3市からの参加が予定されています。

4 平成17年度文書等保存利用機関・団体等職員研修に参加

12月1日(木)赤れんが庁舎で開催された標記の研修に、当課から加藤が参加しました(当館からは他4名が参加)。「歴史資料として、公文書をどう残すか」(北海道立文書館資料課長 山田博司氏)と「市町村合併と文書保存 - 21世紀の地域創造と天草アーカイブズ」(熊本県本渡市立天草切支丹館管理係長 平田豊弘氏)の2つの講義を中心に研修会がもたれました。道内市町村等からも多くの方が参加されました。

5 『資料デジタル化の手引き』を公開(NDL)

国立国会図書館では、所蔵資料のデジタル化に際し、基礎的な事項をまとめた「国立国会図書館資料デジタル化の手引き」を公開しました。この手引きは、各図書館等においても、所蔵資料を電子化する際、参考資料として活用できるものとなっています。

次のアドレスからアクセスできます。

国立国会図書館資料デジタル化の手引き <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitalguide.html>

6 レファレンス協同データベースの公開(NDL)

国立国会図書館では、これまで事業の参加館に限定して公開していたレファレンス協同データベースを、平成17年12月15日から一般に公開しました。参加館が作成し登録した、レファレンスサービス(質問・回答・サービス)の記録や、特定のテーマやトピックについての調べ方の案内など、約8,500件(平成17年12月現在)のレファレンスに関するデータが検索・閲覧できます。

次のアドレスからアクセスできます。

レファレンス協同データベース <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

7 『地域の情報ハブとしての図書館』ご覧になりましたか?

文部科学省生涯学習政策局の委託により設置された「図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会」(構成員:学識経験者や図書館関係者、利用者等)の報告が標記のタイトルのタイトルでまとめられました。21世紀型社会にあって「知」を循環させる拠点として、多種多様な資料や情報が集積する公立図書

館をハブ(中心)とした地域公共ネットワークの在り方が提言されています。

次の文部科学省のアドレスからアクセスできます。印刷用 PDF 形式もあります。

地域の情報ハブとしての図書館 http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm

8 「チャートで考えるレファレンスツールの活用」(大串夏身著)連載中!

標記の論文が、雑誌『図書館の学校』(図書館流通センター)の64号(2005.4.5)から連載されています。レファレンスを組織としてすべての職員が同じ水準で迅速にサービスとして提供するためのポイントがチャート図とともにまとめられています。ご一読を。

編集後記

今回の『Do-Re』は、図書館の将来への熱い思いが所々にみられる内容でしたが、いかがでしたでしょうか。「北海道雑誌新聞総合目録」編集のため今回は『Do-Re』原稿を免除させていただきました。皆さんからのデータをまとめることでいっぱいでしたが、今後、より充実するように努めていきたいと思えます。来年も『Do-Re』共々よろしくお願ひします。(K)

今年は利用講座等が多くあり、「人前で話す」ことの多かった年でした。「話す」ことが大の苦手な私としては、自分が講習等で人の話を聞く機会があれば、「この方の話術を盗む・・・!!」というちょっと別の視点でつつい聞いてしまっています。

「講師学」なんて講義があったらぜひ受けてみたいものです。(I)

前号との期間が短く、書く内容を探すのに少し苦労しました。「こんなのきました」に書いたカジカの話ですが、小松山博氏によると本文中で紹介したのも含め、66種ほどの漢字の別名があるそうです。地方によっては全く別の魚をカジカと呼んだりもしているので、資料によって別名も様々で調査するのも大変でした。(T)

大正15年11月25日開館の当館は、本年80周年です。『北海道立図書館40年史』には「レファレンスの第1号?」として、昭和2年の館報から、大雷雨の日に農夫体の老人が来館し、蟻の駆除の本を求め調べていった記事が引用されています。「こうした要求が多く出て、いわゆる読書相談係というものゝ専門の人を早く置くような機運にしたい」とあり、仕事に暮らしに役立ちたい思いは今も昔も...と思いました。(ひ)

今号にご寄稿いただいた札幌市立月寒中学校の三上先生は、司書教諭として学校図書館の運営にご尽力され、また日本新聞教育文化財団のNIEアドバイザーとしても全国的にご活躍されています。

「市町村のみなさんからの発信」では、苫小牧市立中央図書館の北畠さん、急きょ取り上げた「こんなことしました」(No.19 通巻23号でも《番外編》として掲載)では、本の森厚岸情報館の川原田さん、留辺蕊町立図書館の吉田さんに情報を提供していただきました。お忙しい中の皆さんのご協力に心より感謝申し上げます。

さて、新年には益々の誌面の充実を図ります。乞ご期待!(宮)

2005年の最後を飾る『Do-Re』をお届けします。いろいろあった2005年。市町村の皆様のご協力があればこそと思っています。清しい新年を共に迎えられますよう祈ります。(S)



Do - Re (どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の
略から名付けました。
しかしながら
“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 22 (通巻26号)

発行年月日 平成17年12月27日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
